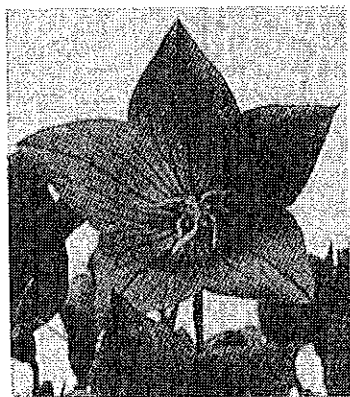


# 2章



## 観賞植物の種類と分類

解説	42
Q & A	
①切り花の種類	46
②鉢植えの植物	48
③枝物とは	50
④観葉植物の分類	52
⑤花壇の花	54
⑥庭や街路の樹木	56
⑦ハーブ	58
⑧食べられる花——エディブルフラワー	60
⑨輸入の花	62

## 観賞植物の 種類と分類

「花」にしろ「緑」にしろ、どれも植物を使って美しさを求めるものだと思います。数多くある植物の利用法から考えて、「見て楽しむ」植物を何と言い、どう分ければよいのでしょうか。

### 観賞植物とは

ダイコンやミカンのように食べるものでもなく、紙を作るために必要な樹木や、着る物を作るワタのように人の生活に欠かすことのできないさ

まざまな物を作る材料でもなく、視覚に訴えることによって、人に役立っている植物を観賞植物といいます。「観賞用植物」を縮めた言葉と考えればよいでしょう。植物分類に基づいた言葉ではなく、植物の利用上の言葉です。観賞植物に対応する言葉としては、食用植物（人が栽培すれば食用作物）、工芸用植物（同じく工芸作物）などがあります。観賞植物をさらに分けるとすると、表のようになります。どれも利用する側が判断した分け方です。どうして花という言葉を使わないかという、観賞用に利用する植物の部分は決して花だけではなく、葉や茎も含まれ、中には、花は全く貧弱で目を引かないものも数多くあるからです。

この項目の中には、花木（植木）というのがあります。正しくは観賞用樹木（観賞樹木）というべきなのでしょう。これは農水省で便宜上決めた言葉で、切り花や鉢物に使わなくて、根がついたまま造園や都市の美化のために利用される樹木を指す「言葉」と考えてください。

ここではハーブとエディブルフラワーも取り上げました。いずれも香りを楽しんだり、食べたりするものではないかと、いささか異和感を持つむきもあるかと思えます。確かにそのとおりですが、例えばハーブを利用する場面は、一般家庭で、香りだけでなく花や葉の美しさをともに楽しみながら育てるという側面が非常に大きいことも事実です。どういう訳か、ハーブとして使われる植物には、花も美しく、葉も見られるものが多いのです。エディブルフラワーはどう見ても観賞用だといえ、料理の先生に叱られるでしょうか。

### 利用法の分類と植物分類とは関係ない

観賞植物を次の表で利用法で分別しましたが、これは植物分類とは全く関係ありません。また同じ植物がいくつかの項目に含まれることも多々あります。例えばキンギョソウは春の切り花としては欠かすことのできないものですが、丈の低い品種は花壇苗としても重要ですし、鉢物として使われることもあります。また

観賞植物の区分

利用区分	分類	主な種類
切り花	1, 2年草 宿根草 球根 枝物 葉物 ラン	ストック, キンギョソウ, ユーストマ キク, カーネーション, カスミソウ チューリップ, ユリ, グラジオラス モモ, ユキヤナギ, ヤナギ類 レザーファーン, フェニックス カトレア, ファレノプシス
鉢物	草花鉢物 花木鉢物 観葉植物 山野草 ラン	シクラメン, プリムラ, シャコバサボテン ポインセチア, ブーゲンビレア, アザレア ゴム類, ドラセナ類  デンドロビウム, シンビディウム
花壇苗		パンジー, インパチェンス, マリーゴールド
花木 (植木)		ツツジ, サツキ, サザンカ, コニファー類
地被植物		ヘデラ, コグマザサ, リュウノヒゲ
芝		芝, ベントグラス
その他	盆栽 古典植物 サボテン・多肉 ハーブ 食用花	マツ類, カエデ類, サツキ オモト, マツバラン, イワヒバ サボテン, コノフィトウム ミント類, ローズマリー, バジル ナスチウム, キンギョソウ

エディブルフラワーとしては最も多く利用されています。キクも同様です。ハイビスカスは鉢物として人気がありますが、沖縄では垣根材料や植え込みに使われます。葉に斑の入る品種はフラワーアレンジメントに使われることもあります。

#### 「その他」とは何か

盆栽、古典植物、サボテン・多肉類はいずれも鉢に植えて観賞します。それでは鉢物の中に入れてもよいのではないかという疑問が起こるのは当然です。盆栽と鉢物（鉢植え）がどう違うかというのは難問ですし、盆栽と鉢植えの木はどこかで接点はあるわけです。それでも分けるべきだというのが大方の考えでしょう。

盆栽は小さな鉢の中に小自然を表すもので、容器そのものが植物と一体になっているものです。駄温鉢で養成中の松の木は、1本の木ではあってもそこには風雪に耐えた自然の木の風情はありません。草物盆栽にしても、その鉢の中に、野山で見る風景の縮図を表していることが大切だと思います。そういった意味で鉢物と盆栽は「違う」としました。なお現在の中国ではわれわれのいう盆栽のことは

「盆景」といい、「盆栽」は広義の鉢植えを指します。

古典植物も別にしました。オモト、マツバラ、ヤブコウジ、イワヒバ、琴糸ナンテンなどです。これらは葉の変化、とくに葉の形や斑の変化を楽しむもので、特殊な鉢に植えて楽しめます。値段はあつてないようなものです。これを鉢植えと区別するには筆者も抵抗を感じました。まず、古典植物の定義がはっきりしないのです。一般的には江戸時代とくに文化・文政の頃、金持ちも庶民も巻き込んだ園芸ブームの中で人気のあった日本古来の植物のいくつかの種で、種内変異が多く、しかも鉢に植えて観賞に値する植物ということになるかもしれません。古典植物も時代によって変化します。例えばカンノンチクやセッコクの斑入りはかなり貴重なものとして古典植物の仲間に入っていました。繁殖技術の進歩により、今では普通の鉢物として取り扱われるようになりました。またマンリョウの斑入り品種も同様です。こうなると「まだ一般に古典植物といわれているから、一応そうしておこう」ということになってしまいます。



『草木奇品家雅見』描写



『草木錦葉集』描写

江戸時代の斑入り植物図鑑

#### 農水省の考え方と生産統計

農林水産省では観賞植物とはいわず、「花き類」と呼んでいます。「花き」としないで「花き類」とし、木本性の植物もすべて取り込みました。ちょっと気になるのが「花木」という用語ですが、最初に述べたので省略します。建設省サイドでは「緑化樹」という言葉を使い、日本緑化センターが統計数字を出しています。

278 ページの表を参照してください。作付面積は延面積なのですが、少し説明が

いるようです。キクで見てください。キクの電照栽培面積は1327haあり、出荷数量は5億526万本です。1ha当たりの切り花数量は約41万本になります。これはキクの栽植密度からいって妥当な線です。電照ギクは戸外で栽培する場合は1年に1作するだけですが、温室（施設）の場合はそんな無駄なことはしません。電照栽培で4月頃出荷した場合は、その後に夏ギクを植え、夏ギクを切った後には、秋ギクを植えるなど年3回は収穫します。施設では同じ温室面積が、電照の所で1倍、電照を含んだキク総数の所では実面積の3倍がカウントされていることになります。

球根切り花の中でフリージアがあります。フリージアの普通栽培は10月頃植えて2月頃切ります。フリージアを収穫したあとキクを植えるとする、同じ温類が、フリージアの項とキクの項でカウントされます。カーネーション、バラ、ガーベラなどの栽培面積は実面積と同じです。したがって、花を栽培している本当の面積がどれだけあるかは、ひとつひとつ当たって見なければはっきりしないということになります。生産額というのは、切り花や鉢物ではその大部分が市場に出荷されます。市場で取引される値段ですから、その中には箱代や輸送費などすべてが含まれています。

〈並河〉

## 2・1 切り花の種類



花屋さんの店先にはいろいろな切り花が並んでいますが、どのような花が切り花用に生産され売られているのでしょうか。



切り花用に使われている花がどのくらいあるのかはよくわかりません。筆者が大まかに調べたところでは、宿根草が70種以上、1~2年草が40種、花木類70種程度、球根30種、ラン17~8種ぐらいで、合計では250種近くになります。切り花の種類は時代によって変わりますし、普通切り花に使わない種類でも、市場に出荷されれば取引されます。全国の市場や花屋さんを全部調べれば、300種以上の植物が切り花として出荷されているのではないのでしょうか。278ページの統計資料を参考にしてください。

### どんな花が切り花に向くか

切り花は花の美しさは当然のこととして、まず、花もちの良いことが大切です。「花もち」という言葉は広辞苑にもありませんが、花を生けてから長い間花を楽しめるという意味で一般によく使います。次に水揚げのよいことです。水揚げとは、ある程度花や葉がしおれても、水に入れるとすぐに水を吸って「しゃん」とすることです。水揚げの良い切り花は輸送に耐えます。

3番目は用途の広いことです。難しい流儀はなくても、花びんに入れて簡単に楽しめたり、生け花、コサージュ、テーブルアレンジメント、葬儀など用途が広い方が需要が多いのは当然です。近頃、キク、カーネーション、バラなどで房咲き(スプレー)品種がもてはやされていますが、これは用途の広さからきています。

4番目は、他の花と一緒に飾って違和感のないことです。宿根カスミソウ、シロクジャク、スターチスなどは、添え花としてどんな花にも合います。

### 花の御三家

世界でも日本でも、切り花需要の1~3位はキク、バラ、カーネーションです。ヨーロッパやアメリカ大陸ではバラが1位の所も多いようです。

キクは日本では1位です。葬式や仏壇、お墓参りなどの仏事や、正月には欠かすことができません。技術の進歩で1年中出荷されるようになりました。

バラは花もちが悪く刺があっても、アンケート調査では常に人気は1位です。咲き始めから満開までの色と形の変化と高級感が人を魅了するのでしょうか。現在

のところ、家庭用には高値感が強いのか、業務用（結婚式、パーティーなど）やギフト用の需要が多いようです。

カーネーションはかつての高級感はやや薄らぎましたが、キクと並んで花もちの良さは横綱級です。1茎にたくさん花を咲かすスプレータイプの品種が急増しています。結婚式やテーブル花には欠かせませんし、家庭用切り花としての需要も定着しています。

### 季節の花

人は花を見て季節を知ります。春には春の、秋には秋の花を求めたくなります。切り花生産者は戸外で見るよりも、やや季節を先取りして出荷します。モモ、サクラ、ユキヤナギなどの枝物や、チューリップ、スイセン、フリージアなどの球根類、キンギョソウ、ストック、ナバナなどの1年草や、ミヤコワスレ、アザミ、マーガレットなどの宿根草です。その他の季節物としては、キキョウ、リンドウ、ミソハギ、ケイトウ、ダリア、コスモスなどが夏から秋に店頭をかざります。お正月用の松や、千両も忘れてはいけない季節の花です。

### 季節を忘れた2番手と添え花

御三家に次ぐ切り花として脚光を浴びているのが、ユーストマ（トルコギキョウ）とユリです。ユーストマはアメリカ原産の花ですが、切り花としての改良は日本が1番です。15年ぐらい前までは、夏から秋の花として、長野県などの高冷地が独占的に生産していたのですが、品種改良や、栽培技術、特に苗作りの進歩と温度管理技術の向上により、ほとんど1年中出荷されるようになりました。花もちが良く、洋風テーブル花としての上品さが、需要を引き起しました。

ユリは大きく分けるとテッポウユリ、シンテッポウユリ、アジアティックハイブリッド、オリエンタルハイブリッドの4つに分かれます。テッポウユリは11月～6月、シンテッポウユリは6月～10月と1年を2分して出荷され、白いユリとして広い用途があります。アジアティックハイブリッドはスカシユリの血の入った白、黄、オレンジなど色彩の豊富なユリです。オリエンタルハイブリッドは豪華なユリで、1年中出荷されます。

添え花としてはカスミソウ、スターチス、宿根アスターなどです。小さな花で目立ちませんが、これがないと主役が生きてきません。このほか、豪華なカトレアなどのラン類も急増しています。

とにかく300種もある切り花、世は変化と多様化の時代でしょうか。〈並河〉

## 2.2 鉢植えの植物



鉢に入った植物は「植木」とも「鉢植え」ともいいます。鉢に植えた植物の分類と、花の種類について教えてください。



年の暮れになると園芸店の店頭にはシクラメンが所狭しと並びます。鉢物の王者といえましょう。マンションのベランダにも草花の鉢や観葉植物が全然置いていない家はほとんどありません。

鉢物の生産と消費は順調に伸びています。普通は鉢に植物が植えてあれば鉢物というのですが、花の業界ではもう少し狭義に使われます。

鉢植えの種類と用語

鉢植えの種類	業界用語
草花の鉢植え	草花鉢物 } 鉢物
花木の鉢植え	
山野草の鉢植え	山野草
ランの鉢植え	ラン鉢
観葉植物	観葉植物
盆栽	盆栽
果樹の鉢植え	果樹
古典植物	古典物

鉢物の大部分は市場で取引されますが、切り花のような共同出荷はごく少なく、ほとんどが生産者が直接市場に出荷します。もちろん、大型園芸店と生産者の直接取引も盛んですし、都会周辺のシクラメンの生産者は、消費者に直売する割合が40%を超えています。

鉢物の種類は非常に多く、前述の狭義の鉢物でも100種類以上が流通しています。鉢物は、切り花と違って人工的な開花調節をあまりしないものが多く、シャコバサボテンやポインセチアのように短日処理で早く咲かせるものも、その期間は限られています。そのため季節感を大切にしているといえます。ところがシクラメンは元来春の花で、温室で栽培しても普通は2~3月に咲くにもかかわらず、いつの頃からか、暮れの花になってしまいました。これは花を早く咲かせるために、植物ホルモンの1種ジベレリンを使うようになってからです。この技術が暮れの贈答用としての人気を作りました。



鉢物は横から見たときに、鉢の高さとのバランスが必要です。鉢の高さの割に丈が高すぎると倒れやすくもなります。鉢に合わせてコンパクトに仕上げるために、種類によっては矮化剤を使うことがよくあります。例えばハイビスカスはサイコセルを散布しますし、ポインセチアやラナンキュラスなどにも矮化剤を使います。シャクナゲにはウニコナゾールという薬剤を使いますが、この薬は丈を伸ばさなだけでなく、つぼみを良くつける効用があります。

数多く出荷される鉢物の一部を表に示しました。これ以外に花壇苗として使われる花はすべて鉢物にも使われます。

〈並河〉

主な鉢物の種類と出荷期

種 類	科 名	繁殖方法	出荷期
アザレア	ツツジ	挿し木	12～3月
アジサイ	ユキノシタ	挿し木	5～6
エキザカム	リンドウ	タネまき	6～10
エニシダ	マメ	挿し木	3～4
エラチオールペゴニア	シュウカイドウ	挿し芽	11～5
カーネーション	ナデシコ	挿し芽	4～5
ガーベラ	キク	タネまき	3～4
カラジウム	サトイモ	分球	5～7
カルセオリア	ゴマノハグサ	タネまき	3～4
クリスマスペゴニア	シュウカイドウ	挿し芽	12～2
グロキシニア	イワタバコ	タネまき	5～8
シクラメン	サクラソウ	タネまき	10～3
シネリリア	キク	タネまき	12～3
ゼラニウム	フウロソウ	タネまき	3～5
セントポーリア	イワタバコ	挿し芽	4～6
トウガラシ	ナス	タネまき	5～7
ニチニチソウ	キョウチクトウ	タネまき	5～8
ニューギニアインパチェンス	ツリフネソウ	挿し芽	4～6
ハイビスカス	アオイ	挿し木	4～8
プリムラオブコニカ	サクラソウ	タネまき	1～2
#    ジュリアン	サクラソウ	タネまき	12～3
#    ポリアンタ	サクラソウ	タネまき	12～3
#    マラコイデス	サクラソウ	タネまき	12～1
ポインセチア	トウダイグサ	挿し木	10～12
ラナンキュラス	キンボウゲ	球根	1～3
リンドウ	リンドウ	挿し芽	8～9
シャコバサボテン	サボテン	挿し芽	9～11

## 2・3 枝物とは



生け花の先生が「このごろは良い枝物がなくて」といいます。枝物とは何か教えてください。



枝物（えだもの）という言葉は奇異に感じられるかも知れません。古くから市場や小売店、生け花の先生の間に使われていた言葉です。切り花の中で、木本性（ふつうに言う木のこと）で、主として生け花材料として使われるもののことです。木本性といってもバラはこの中に入りません。木を利用する中で、太い木を自然の形で切って出荷される場合は木物（ぼくもの）といえます。これも業界用語です。

枝物の生け花材料として利用は極めて古く、平安時代にさかのぼります。伝統的な「生け花」に使われていたため、日本または中国原産の木がほとんどでした。昭和10年（1935年）頃からは欧米原産の木も利用されるようになりました。

枝物は大きく分けると三つに分けられます。まず第1は花の咲く木で、特に春に咲く木に人気があります。戸外で咲く時期より1~2月早く出荷されます。つばみの沢山ついた枝を切って特殊な形に束ね（このことを「枝折り（しおり）」といいます）、土の中に掘った穴倉（「むろ」といいます）の中で発酵熱によって加温して促成したものです。最近むろを使わず、温室を利用することが多くなりましたが、モモやサクラではいまだに伝統的な手法が使われています。主な種類はウメ、サクラ（ヒガンザクラ、ケイオウザクラなど）、モモ、サンシュユ、マンサク、レンギョウ、トサミズキ、ユキヤナギ、コデマリなどです。モモは桃の節句には欠かせない花ですし、他の花も春を先取りするということで、近代的なアレンジメントにも使われるようになりました。このほか花を楽しむ枝物としては、ツツジ（ベニキリシマ）、ツバキ、アカシアなどがあります。

これらの種類は、どこにでもある木ですが、枝物として使われるものは、枝がよく伸び、しかも花が枝に数多くつくことが要求されます。そのため、庭園用とは違う品種や系統が使われています。

2番目は葉のない枝、すなわち冬の休眠枝を使うものです。幹の色や、枝の変化を利用します。石化ヤナギ、ニシキギ、コウテングワ、石化エニシダなどは後者です。サンゴミズキは枝の赤さが目立ちます。ネコヤナギやユリヤナギ、ガクア

ジサイなどは、休眠中の幹とともに、早春の芽ぶきを楽しみます。

次は枝とともに、緑または斑入りの葉を生けるものです。生産量は少なくなり、利用頻度も減りましたが、生け花には必要です。

鉢葉樹では、スギ(コウテンスギ、セッカンスギなど)、ソナレ、イブキ類、サワラ(ヒムロスギ)、正月用のマツなどがありますし、広葉樹ではヒイラギナンテン、斑入りマサキがよく使われます。外国産ではオーストラリア原産のキンポウジュ、ユーカリなどです。ユーカリ、特に丸葉ユーカリはフラワーアレンジメントにも使われます。また忘れてはならないものに仏事で使うシキミがあります。

枝物の生産は年々減少しています。古典的な生け花全盛期には、切り花の中の枝物のシェアは非常に高いものでした。そのころは運送手段が不便な時代でしたので、他の切り花よりボリュームがある枝物は長距離輸送が困難でした。そのため都市近郊に生産地があり、そこで伝統的な枝折り技術(独得の束ね方)とふかし技術(むろを使った促成)が世襲的にはぐくまれました。ところが昭和30年(1955年)以降の都市の拡大により産地が住宅地化し、それとともに技術を持った人の数も非常に少なくなりました。それと平行して生け花を習う人も急減し、洋風のアレンジメントが盛んになります。その結果、緑を使う枝物の代わりに、ロベリアの葉、レザーファーン、アスパラガス、枝物としては技術を要しないユーカリ、アカシアなどが大手を振るようになりました。 <並河>

## 2・4 観葉植物の分類



ビルや家庭で使われる観葉植物と、管理に適する温度や光の条件について教えてください。



観葉植物は読んで字の如く、美しい葉を持つ植物を指しています。一般には、熱帯・亜熱帯原産の植物を指すことが多いのですが、わが国に自生する一部の温帯産植物も和物観葉植物として流通しています。

最近、フラワーショップにおける商品特性の把握や情報の不足が指摘されています。これでは、栽培方法の的確なアドバイスができません。原産地、自生状況から、越冬温度や光に対する適応性、灌水等の管理方法がある程度判断できます。その意味から、正しい分類を知る必要があります。科、属、種と植物学的に分類することは大前提ですが、実際的には情報を得ようとする人のニーズによって分類の仕方が変わります。例えば、<sup>そうぼん</sup>草本（ふつうに言う草のこと）か木本か、宿根性か否か、寒さ、暑さ、乾燥等に耐えるか、強光を好むか弱光を好むか、大きくなるのかならないのかといったような分類も必要です。多様化する消費者ニーズに対応するため、正しい分類に基づき特性を把握することが重要です。以下、観葉植物をいくつかのグループ分けしてみました。 <柴田>

光に対する適応性による分類

耐陰性が強い 観葉植物	アグラオネマ、サンセベリア、オリヅルラン、カラテア、マランタ、ペペロミア、エクメア、グズマニア、スパティフィラム、トックリラン、インドゴム、ドラセナ、シェフレラ、ブラッサイア、ココヤシ、パキラ、ユッカ、ディジゴセカ、コーヒーノキ、フィロデンドロン、ポトス、ヘデラ、ホヤ、セイシカズラ、アオキ、ヤツデ、カクレミノ、マサキ、イヌマキ、カマクラヒバ、スギ、シュロチク、カンノンチク、センリョウ、マンリョウ
耐陰性が弱い 観葉植物	ネフロレピス、トラデスカンティア、コリウス、ルエリア、ユーホルビア、アカリファ、クロトン、ポインセチア、ハイビスカス、フクシア、ブーゲンビレア、マツリカ、サンタンカ、クレロデンドルム、ジャスミン類、マンデビラ、モミジ、ピンオーク、カツラ

最低越冬温度による分類

最低越冬温度		0°C 以下	5°C 前後	10°C 前後	15°C 前後
熱帯・亜熱帯原産観葉植物	①草物的な観葉植物(葉のみ観賞)		アジアンタム, ネフロレピス, アスプレニウム, オリヅルラン, トラデスカンテア, セネシオ	アグラオネマ, ディフェンバキア, サンセベリア, カラテア, マランタ, ピレア, ペペロミア	アローカシア, カラジューム, フィットニア, コリウス
	②草物的な観葉植物(葉と花を観賞)		木立ちベゴニア	エクメア, チランドシア, グズマニア, アフェランドラ, アンスリューム, スパティフィラム, エスキナンサス, コルムネア, ルエリア	
	③樹木的な観葉植物(幹と葉を観賞)	モントレイトスギ・ゴールドクレスト, ニオイヒバ・エメラルド, サワラ・ボールバード	アロウカリア, トックリラン, シェフレラ, ユッカ, デイジゴセカ	アカリファ, タコノキ, インドゴム, ベンジャミンゴム, ドラセナ, コルディリネ, ブラッサイア, フェニックス, アレカヤシ, パキラ, ポインセチア, ポリーシャス	クロトン
	④樹木的な観葉植物(幹と葉および花・実を観賞)		ハイビスカス, フクシア, ブーゲンビリア, プルンフェルシア, ゲッキツ	コーヒーノキ, オオゴショウ, マツリカ, サンタンカ, ジャカラランツ	
	⑤つる性植物		ホヤ, ジャスミン類, マンデビラ, セシカズラ	フィカス・ブミラ, フィロデンドロン, ポトス, シンゴニウム, クレロデンドルム	
和物観葉植物	アオキ, ヤツデ, カクレミノ, セイヨウバクチノキ, モチノキ, マサキ等の常緑広葉樹, イヌマキ, カマクラヒバ, カイツカイブキ, スギ等の常緑針葉樹, タケ, ササ, シュロチク等ヤシ類, マンリョウ等の実付きもの, モミジ, カエデ, ピンオーク, カツラ等の落葉広葉樹		カンノンチク等のヤシ類, センリョウ等の実付きもの		

## 2・5 花壇の花



町内会で、公園の花壇に1年中花を咲かせたいのですが、季節ごとにどんな花がよいのか教えてください。



花壇苗の需要は年々10% ぐらいずつ伸びているのではないのでしょうか。「でしょうか」というのは、花壇苗の流通は非常に複雑で、市場を通さない部分が多いからです。例えば大阪で行われた「花の万博」では膨大な量の花壇苗が使われましたが、この時には、万博の運営組織が全国の生産者団体に必要量を割り当て、直接苗を集めました。各県で毎年行われる国体や緑化フェアなどのイベントでは、これまで花を作ったことのない農家が、1年以上前から計画して大量に苗を作ることもあります。また造園会社が大花壇の植え付けを請け負う場合がよくあり、この場合には、生産者と造園会社の間を取り持つ「下入れ屋」という人たちが活躍します。最近是一般家庭でも、小花壇やプランターに花の苗を植える人が多くなり、市や町ぐるみで、花を植えるところもふえてきました。

### 花壇材料の条件

花壇に植える草花は、植え付けてから、次々と花が咲き、できるだけ長い間、同じ場所で美しさを保つことが要求されます。また、プロでなければ処理に困るような病気や害虫の出やすいものは実用的ではありません。したがって、1回花が咲けばそれでおしまいという、アスター、オダマキ、キキョウ、ストックなど、いわゆる季節の花は、メインの花壇材料には不向きです。チューリップは春の花壇に欠かせないものですが、花は1回だけ咲き期間も限られています。これはむしろ例外的で、葉だけの時から、春を待つ期待感がチューリップに込められ、見る人の夢をそそっているのかもしれない。

### 花壇の1年

1月から12月まで使われる花壇を眺めて見ましょう。冬から春にかけての王者はパンジーです。11月頃から5月までほぼ半年ぐらい花が楽しめます。寒地では3月頃まで、7~9月頃咲かせることも可能です。花色の変化も多く、花の大きさもまちまちです。目立った病気もなく、寒さにも強い、まさに花壇苗として理想的です。

サルビア、マリーゴールド、ペゴニア・センパフローレンスは夏の花です。5月

から10月まで咲き続けます。この3種類のどれかとパンジーを組み合わせると、それだけで1年の花壇が埋まることとなります。インパチェンスも同じように夏の花として使えます。以上の花が、花壇材料のベスト5です。

サルビアにも近頃は赤だけでなくいろいろな花色が出てきました。サルビアは花壇ではよいのですが、プランターに植えると、根が張り過ぎて根詰まりを起こします。あまり長期間プランターで栽培するのは無理でしょう。マリーゴールドは土の中で植物の根に寄生して根を枯らす「ネグサレセンチュウ」を退治してくれます。その効果は3年ぐらい続きますので、3~4年に1回、花壇に取り入れることにより、他の草花の生育には好結果をもたらします。特に、ネグサレセンチュウに弱いペゴニアを植える前の年の夏には、まさにおすすめ品です。

毎年同じ花ばかりでは面白くありません。表に示した主な種類を組み合わせると多彩な花壇を楽しもうではありませんか。この表以外にも花壇で長く楽しめる花はたくさんあります。

キンギョソウ(4~10月)、ジニア(夏)、センニチュウ(6~10月)、コレウス(5~9月)など開花期間の長いもののほか、花期は比較的短くても季節感にあふれるものには次のようなものがあります。

春の花：キンセンカ、デジー、ナデシコ、ワスレナグサ、ケシ類

夏の花：ケイトウ、トレニア、マツバボタン、ハナタバコ、キバナコスモス

秋の花：コスモス、キク

〈並河〉

主な花壇苗の種類と観賞期(東京中心)

種 類	科 名	観 賞 期	備 考
アゲラタム	キ ク	6~9月	
アリッサム	アブラナ	11月, 3~5月	寒地では5~9月
インパチェンス	ツリフネソウ	5~9月	
クリサンセマム パルドースム	キ ク	3~5月	寒地では5~7月
サルビア	シ ソ	5~10月	
宿根バーベナ	クマツヅラ	5~10月	
ニチニチソウ	キョウチクトウ	7~10月	
ハボタン	アブラナ	11~3月	
パンジー	スマレ	11~5月	寒地では6~9月
ペゴニア (センバフローレン ス)	シュウカイドウ	5~10月	
ペチュニア	ナ ス	4~6月	
マリーゴールド	キ ク	5~10月	

## 2・6 庭や街路の樹木



造園や街路樹などの種類と分け方について教えてください。



緑化樹は植物学的に科、属、種に分類するほかに、常緑樹・落葉樹、高木・中木・低木、広葉樹・針葉樹に分類する方法があります。すなわち、常緑高木・落葉低木、常緑広葉樹・落葉針葉樹等というように樹木の性質、形態によって分類されます。さらに、観賞価値の高い花が咲くか咲かないかによって、花木と緑化木に分けることもあります。また、植栽場所の選定等には生態学的な分類も必要です。陰樹か陽樹かを知れば、日陰地植栽に向くか向かないか等の樹種選定が可能になります。また、紅葉が美しいかどうかも把握する必要があります。

利用場面からは、庭木、街路樹、グラウンドカバーあるいは造形樹、規格品(公共緑化樹)に分けられます。この分類には明確な定義付けがありませんが、庭木は主に造形樹およびグラウンドカバー植物が含まれ、街路樹はすべて規格品と考えてください。

栽培形態によって露地栽培、コンテナ栽培という分類もあります。露地栽培は出荷直前に畑から掘り上げ、コモやワラ、麻布等で根巻きされた株のことです。それに対し、コンテナ栽培は早い段階からポット等の容器で栽培されたものを指しています。

またこれまでなおざりにされてきた耐潮性、耐寒性、耐乾燥性や刈り込みに耐えるか耐えないか、といった分類も必要となります。例えば、都市の膨張につれて、生活空間が海岸の埋め立て地に移行していますが、そこを緑化するには耐潮性樹種を把握する必要があります。生け垣用樹としては、刈り込みに耐え枝吹きが良いことが欠かせません。

実際には情報を得ようとする人のニーズによって分類の仕方が変わるため、これからのビジネスにとって多種多様な情報を収集し、複合的に分類することが重要です。

〈柴田〉



庭 園 樹

日本庭園的な造形樹 (段仕立て、玉散らし仕 立て、車仕立て等)	常緑針葉樹：アカマツ、クロマツ、ゴヨウマツ、イヌマキ、イチイ、キャラボク 常緑広葉樹：イヌツゲ、ウバメガシ	
西洋的な造形樹(円錐 形、円柱形、ゾウ等の 動物に整形したトピア リー)	常緑針葉樹：イヌマキ、ラカンマキ、イチイ、キャラボク、ビャクシン、ヒノキ 常緑広葉樹：イヌツゲ、ツゲ	
造形樹以外の 庭園樹	日本庭 園向き	コウヤマキ、コノテガシワ、サワラ、ハイビャクシン、ヒノキ、アオキ、カク レミノ、クロガネモチ、サカキ、モッコク、ヤツデ、ヤマモモ、クヌギ、シャ ラノキ、ソヨゴ、ドウダンツツジ、イロハカエデ、ニシキギ、ハゼノキ
	西洋庭 園向き	ビャクシン、コノテガシワ、サイプレス、トウヒ、ニオイヒバ、ハイビャクシ ン、ヒノキ、ヒマラヤシーダー、モミ、ロウソクヒノキ、カナメモチ、セイヨ ウバクチノキ、セイヨウヒイラギ、赤葉メギ、ノルウェーカエデ

公共緑化樹 (規格品)

街路樹 (道路緑化樹)	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 常緑針葉樹：イチイ、ビャクシン、ヒマラヤシーダー</li> <li>② 常緑広葉樹(高木)：クス、シラカシ、スグジイ、ツバキ、マサキ、マテバシ イ</li> <li>③ 常緑広葉樹(中・低木)：アベリア、イヌツゲ、サツキ、ツツジ、シャリンバ イ、ツゲ、トベラ、ネズミモチ、ハマヒサカキ、イヌツゲ、ツゲ</li> <li>④ 落葉広葉樹(高木)：<u>イチヨウ</u>、ケヤキ、コブシ、シダレヤナギ、<u>トウカエデ</u>、 <u>ナナカマド</u>、<u>ハナミズキ</u>、プラタナス、マロニエ、<u>モミジバフウ</u>、ユリノキ</li> <li>⑤ 落葉広葉樹(中・低木)：ネムノキ、ウツギ、ガマズミ、センダン、トサミズ キ、ハギ、ハマナス、マンサク、ムクゲ、ヤマブキ、ユキヤナギ、ライラッ ク</li> </ul>
環境緑化樹 (緑地帯、防風帯等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 常緑針葉樹：クロマツ、コノテガシワ、ヒマラヤスギ、ビャクシン</li> <li>② 常緑広葉樹：アベリア、クス、シイ、シャリンバイ、セイヨウバクチノキ、 トベラ、ハマヒサカキ、マサキ、マテバシイ、モチノキ、モッコク</li> </ul>
グラウンドカバー (地被植物)	<ul style="list-style-type: none"> <li>① つる性植物：アイビー、イタビカズラ、スイカズラ、ツルバラ、<u>ナツツタ</u>、 ノウゼンカズラ、ビグノニア、ピナンカツラ、ロニセラ・ニティダ</li> <li>② 低木：アベリア、オウバイ、クサツゲ、コトネアスター、セイヨウイワナ ンテン、ハイビャクシン、ハマナス、ヒベリカム、サワラ・フィリフェラ、 フッキソウ</li> <li>③ 竹笹類：オカメザサ、クマザサ、コグマザサ、チゴザサ</li> </ul>

(注) アンダーラインは紅葉がきれいな樹種

## 2・7 ハーブ



いろいろな場面でハーブが利用され、注目されていますが、ハーブとは具体的にどのような植物についていっているのでしょうか。



「ハーブ」という言葉は、草を表すラテン語の「Herba」という言葉由来しています。紀元前より地中海沿岸地方で用いられていた薬となる草や生活に役に立つ植物を、親しみをこめて「ハーブ」と呼ぶようになったようです。本来は西洋の薬草だったのですが、さまざまに利用されるようになりました。そのなかでずっと利用されてきたものが今日「ハーブ」と呼ばれている植物です。

### 日本人とハーブ

日本では、ハーブというとよい香りのする植物、料理や香りを楽しむ植物、そして、身体によい、やさしいという面が強調されています。生活の中に商品として定着しつつあるハーブも、本当のところは何だかよくわからないという人が多いのが現状のようです。しかし、少しずつではありますが、園芸植物として定着しつつあることは確かです。ポプリやハーブティーの講座がカルチャースクールなどで開かれるようになってきました。これからは普通に生活になじんでくることでしょう。

また、ハーブというとヨーロッパのものと考えがちですが、ハーブと同じような役割をはたす植物は、日本を含めたアジアにも多くあります。日本の刺身のつま、草木染の染料、薬草の中でも民間薬と呼ばれるものは、まさに同じ役割を果たしています。しかし、現時点では、主にヨーロッパで用いられていたものがハーブとして扱われているようです。

### ハーブの名前と種類

ハーブの名前は、ほとんどがヨーロッパで使われている英名で呼ばれます。日本で親しまれている植物や、それに近い植物も横文字で呼ばれるので分かりにくくなっています。名前だけがひとり歩きしていてどんな植物かわからないこともしばしばです。また、日本では学名で植物を覚える習慣がないため、さらに混乱をまねくようです。おもなハーブについて英名、和名、学名、科名を表にまとめましたので参考にしてください。種類は多く範囲も広いので数えきれませんが、主に利用されているものは、香りの強いシソ科、セリ科に集中しています。とく

に多年草が多いシソ科は、一般によく栽培され利用されています。 <長谷川>

おもなハーブの名前

英名	和名	学名	科名
ペパーミント Pepermint	セイヨウハッカ	<i>Mentha × piperita</i>	シソ科
スペアミント Sperrmint	ミドリハッカ	<i>Mentha spicata</i>	シソ科
ペニーロイヤル Pennyroyal	メグサハッカ	<i>Mentha pulegium</i>	シソ科
セイジ Sage	ヤクヨウサルビア	<i>Salvia officinalis</i>	シソ科
レモンバーム Lemon barm	セイヨウヤマハッカ	<i>Melissa officinalis</i>	シソ科
ベルガモット Bergamot	タイマツバナ	<i>Monarda didyma</i>	シソ科
マジョラム Sweet marjoram	マヨラナ	<i>Origanum majorana</i>	シソ科
オレガノ Oregano	ハナハッカ	<i>Origanum vulgare</i>	シソ科
バジル Basil	メボウキ, バジリコ	<i>Ocimum basilicum</i>	シソ科
ローズマリー Rosemary	マンネンロウ	<i>Rosmarinus officinalis</i>	シソ科
キャットニップ Catnip	イヌハッカ	<i>Nepeta cataria</i>	シソ科
タイム Thyme	タチジャコウソウ	<i>Thymus vulgaris</i>	シソ科
サマーセイボリー Summer savory	キダチハッカ	<i>Satureja hortensis</i>	シソ科
ヒソップ Hyssop	ヤナギハッカ	<i>Hyssopus officinalis</i>	シソ科
ラベンダー Lavender		<i>Lavandura angustifolia</i>	シソ科
コリアンダー Coriander	コエンドロ(香菜)	<i>Coriandrum sativum</i>	セリ科
ディール Dill	イノンド	<i>Anethum graveolens</i>	セリ科
キャラウェイ Caraway	ヒメウイキョウ	<i>Carum carvi</i>	セリ科
チャービル Chervil		<i>Antheriscus cerefolium</i>	セリ科
フェネル Fennel	ウイキョウ	<i>Foeniculum vulgare</i>	セリ科
カモミール Chammile	カミツレ	<i>Anthemis nobilis</i>	キク科
マリーゴールド Marigold	キンセンカ	<i>Calendula officinalis</i>	キク科
ヤロウ Yarrow	イヨウノコギリソウ	<i>Achillea millefolium</i>	キク科
タラゴン Tarragon		<i>Artemisia dracunculus</i>	キク科
タンジー Tansy	ヨモギギク	<i>Chrysanthmum vulgare</i>	キク科
チコリ Chicory	キクニガナ	<i>Cichorium intybus</i>	キク科
ダンデライオン Dandelion	セイヨウタンポポ	<i>Taraxacum officinale</i>	キク科
ソープワート Soapwort	サボンソウ	<i>Saponaria officinalis</i>	ナデシコ科
マロー Mallow	ウスベニアオイ	<i>Malva sylvestris</i>	アオイ科
ナスタチューム Nasturtium	キンレンカ	<i>Tropaeolum majus</i>	ノウゼンハレン科
チャイブス Chives		<i>Allium schoenoprasum</i>	ユリ科
サラダバーネット Sarad burnet	オランダワレモコウ	<i>Poterium sanguisorba</i>	バラ科
ボリジ Borage	ルリチシャ	<i>Borago officinalis</i>	ムラサキ科
ベイ Bay	ゲッケイジュ	<i>Laurus nobilis</i>	モクセイ科
ロケット Rocket	キバナズシロ	<i>Eruca vesicaria</i>	アブラナ科
レモングラス Lemon grass		<i>Cymbopogon citratus</i>	イネ科
センテッドゼラニウム Sented geranium	ニオイテンジクアオイ	<i>Pelargonium sp.</i>	フウロソウ科

## 2・8 食べられる花——エディブルフラワー



料理の本や婦人雑誌にエディブルフラワーという言葉が出てきます。どのような花を指すのでしょうか。



「エディブル・フラワー」とは「食べられる花」のことで、花・つぼみおよび花茎を食用にします。エディブル・フラワーは三つに分けられます。

- ① 古くから花・つぼみ・花茎を野菜として利用していたもので、利用部分による野菜の区分に「花菜」という用語もあります。
- ② 料理の飾り、あしらいとして用いたり、季節感を出すために料理に添えられ、あるいは汁のうき実、花茶として使われてきたものです。和風料理と結びついています。
- ③ 食生活が豊かとなるとともに、料理をひきたてて豪華に見せ、同時に食べることもできる花、これがエディブル・フラワーの大部分と考えてよいでしょう。

①は純然たる野菜で、これをエディブル・フラワーの中に入れるのは無理でしょう。②として利用された歴史は古いのですが、ここでいうエディブル・フラワーに入るものもかなりあります。

エディブル・フラワーとして使えるためには、①無毒であること (edible を英和辞典でひくと、「食べることができる、食べられる」とあり、中には無毒であると但し書きがしてあるものもあります)、②料理、容器と色、形、大きさがマッチすること、③できれば食べておいしいことなどが必要な条件です。 <芦澤>

エディブル・フラワーの例 (1992 年作表)

科 名	一 般 名	別 名	英 名
ア オ イ	ウスベニアオイ	マ ロ ー	high mallow
	ハナアオイ	ロ ゼ ー ラ	rosella
	ブッソウゲ	ハ イ ビ ス カ ス	hibiscus
ア カ バ ナ	フ ク シ ア	ホ ク シ ア	ladies-eardrops
ア ブ ラ ナ	ス ト ッ ク	ア ラ セ イ ト ウ	stock
	ロ ケ ッ ト	エ ル カ	rocket salad
ア ヤ メ	サ フ ラ ン		saffron
キ ク	カ ミ ツ レ	カミルレ, カモミール	chomomile

	キンセンカ*1	カレンジュラ ポットマリーゴールド	pot marigold
	コスモス	アキザクラ	cosmos
	セイヨウノコギリソウ	コモンヤロー	common yarrow
	タンポポ	ダンデライオン	dandelion
	ヒナギク*2	デージー	English daisy
	ヤグルマソウ	ヤグルマギク	corn flower
ゴマノハグサ	キンギョソウ	スナップドラゴン	snapdragon
	トレニア	ハナウリクサ	torenia
サクラソウ	イチゲサクラソウ	プリムローズ	primrose
	サクラソウ	プリムラ	Siebolds primrose
シソ	セイヨウヤマハッカ	レモンバーム	lemon balm
	ハナハッカ	オレガノ	oregano
	マヨラナ	スイートマジョラム	sweet majoram
	マンネンロウ	ローズマリー	rosemary
	メボウキ	スイートバジル	sweet basil
	ヤナギハッカ	ヒソップ	hyssop
	ラベンダー	ラベンデュラ	lavender
シュウカイドウ	ベゴニア	シキザキベゴニア	bedding begonia
スベリヒユ	マツバボタン	ヒジリソウ	portulaca
スミレ	ニオイスマレ	バイオレット	sweet violet
	パンジー	サンシキスマレ	pansy
	ピオラ	ピオラトリコロール	heartsease wildpansy
セリ	イノンド	デイル	dill
	ウイキョウ	フェンネル	fennel
	コエンドロ*3	コリアンダー	coriander
	チャービル	セルフィーユ	chervil
ツリフネソウ	ハウセンカ	ツマクレナイ	garden balsam
ナス	ペチュニア	ツクバネアサガオ	petunia
ナデシコ	カーネーション	オランダセキチク	canation
	ナデシコ	チャイニーズ・ピンク	chinese pink
ノウゼンハレン	ナスタチュウム	キンレンカ	nasturtium
バラ	オランダワレモコウ	サラダバーネット	salad burned
	サンザシ	ホーソーン	hawthorn
	バラ	ローズ	rose
	レディスマントル	ハゴロモグサ	lady's mantle
フウロソウ	ニオイテンジクアオイ		rose geranium
マメ	クリトリア	チョウマメ	butterfly pea
	シロツメクサ	ホワイトクローバー	white clover
	スイートピー		sweet pea
ムラサキ	ルリジサ	ボリジ	borage
モクセイ	マツリカ	モウリンカ	Alabian jasmine
ユリ	チャイブ	セイヨウアサツキ	chive
ラン	デンドロビューム ファレノプシス	デン・ファレ	Dendrobium phalaenopsis

- \*1 African marigold と混同しない  
 \*2 American daisy と混同しない  
 \*3 香葉 (シャンツアイ) と同種

科はその五十音順に、科内は一般名の五十音順に配列  
 【食用の花と調理の方法】(1992) を参考として作表

## 2・9 輸入の花



花の輸入が増加していますが、どのような花が輸入されているのでしょうか。



### 花の輸入の動き

装飾用の切り花や切り枝類の輸入は、1985年（昭和60年）頃から増加傾向を強め、1991年（平成3年）の年間輸入総数量は4億4千万本、金額は208億円に達しています。これは、国内の総販売量58億本の約7.5%のシェアとなります。

花の輸入先は、1985年以前には台湾とタイが主体で、アメリカ、シンガポールや南半球のオーストラリア、ニュージーランドからも輸入されていましたが、オランダはわずかでした。しかし、その間、オランダは日本のマーケットに注目し、熱心に需要調査を続けていました。その結果をもとに、1985年から日本向け輸出に本格的に取り組み、1991年には金額で第1位の対日輸出国（金額）になりました。タイは輸出数量では第1位を維持していますが金額では第2位となりました。

このような花の輸入の急拡大は、昭和50年代からのわが国の著しい経済発展に伴う国民所得の向上と、生活環境の洋風化、都市化の進展によって、花の消費が順調に増大したことが要因と考えられます。この間、国内の花の生産も順調に伸びたのですが、消費者がこれまで以上に海外の目新しい花の種類や新品種に関心が強くなったことも大きな要因と思われます。

### 輸入される花の種類

日本は南北2千数百キロメートルにわたり地域により気候が異なるため、多様な種類の花が年間を通じてどこかで生産されるという世界でも珍しい国です。また、生産量もオランダ、アメリカと並ぶ三大生産国のひとつで、国内の需要を十分に満たせる生産力をもっています。しかし、フラワーアレンジメントの普及に伴って、珍しい花や新しい花を求めるとともに、同じ花を1年中使いたいという消費者の要望も顕著になってきました。このため、輸入される花の種類は、国内では生産されていない新しい花の品種や、日本の気候と反対の南半球の国々から季節外れの花、南半球独得のプロテアやカンガルーポー、ワックスフラワー等が主なものとなっています。特に、オランダは優れた新品種の開発力を活かして、チュ

ーリップ、ユリ、カーネーション等多様な種類のカラフルな新品種を日本に積極的に輸出し、消費者の注目を集めています。

また、オランダは世界最大の花市場を持ち、自国産のほか世界各地から花が集まる一大流通センターの地位を確保しており、巨大市場の供給力を武器に、日本国内で供給が不十分とみれば即刻日本向けに輸出する体制が整えられています。母の日の赤いカーネーションや国内の天候不順等で市場価格が上昇する場合には威力を発揮しています。

輸入切り花の種類と主な輸出国

種 類	数 量	主 な 輸 出 国
総 数 量	百万本 441	
ラ ン	138	タイ, シンガポール
キ ク	44	台湾, オランダ
カーネーション	21	オランダ, アメリカ
バ ラ	15	オランダ
チューリップ	8	オランダ
ユ リ	11	オランダ
グラジオラス	10	台湾, オランダ
その他	194	アメリカ, オーストラリア, ニュージーランド

資料：農林水産省農蚕園芸局果樹花き課調べ

### 花の輸入と植物検疫制度

花の輸入にあたっては「植物防疫法」に基づく植物検疫を行い、外国から新しい害虫や病気を国内に侵入させない対策がとられています。しかし、花の生命は鮮度にあり、輸入された花はできる限り早く通関を終わらせ消費地に渡す必要があります。このためには、輸出国の生産地で病害虫を徹底的に防除し、輸出検査を受けて合格品を日本に送ることが安全ですが、実際にはしばしば成田国際空港等で検疫に不合格となったり、輸入量の急増から到着した空港で検疫のために長時間を要することもあります。農林水産省ではこのような状況を回避し、円滑に輸入検疫が行えるよう植物防疫官の増員や施設の拡充を行うと同時に、最大の輸出国のオランダに植物防疫官を常駐させ、現地で日本向け切り花の積み出し直前に検査し合格品のみ輸出する対策を行っています。

このため、最近では空港での通関の遅れは大変改善されてスムーズに輸入が行われるようになってきました。 <鈴木 司>

## 毎日の誕生花と花言葉

	4月	5月	6月
日	[4月の花]カスミソウ, ミヤコワスレ	[5月の花]カーネーション, スズラン	[6月の花]バラ, グラジオラス
1	ソメイヨシノ●優れた美人	エーデルワイス●尊い記憶	チュベローズ●危険な楽しみ
2	ミヤコワスレ●別れ	フクシア●上品な趣味	マツヨイグサ●ほのかな恋
3	アスター●変化	スズラン●純潔	アジサイ●移り気
4	カスミソウ(白)●清心	スターチス(紫)●上品さ	バラ(ピンク)●満足
5	ワスレナグサ(青)●誠の愛	カラー(黄)●壮大な美	オモダカ●高潔
6	キンレンカ●愛国心	オダマキ●別れた恋人	イチハツ●使者
7	アカツメクサ●勤勉	ボタン●はじらい	バラ(黄)●薄れゆく愛
8	リング●選択	ハナショウブ●優しい心	ニセアカシア●親睦
9	ヤマブキ●気品が高い	ミズキ●耐久	ルリハコベ●約束
10	イチジク●子宝に恵まれる	ペチュニア(白)●和らぐ心	ジャスミン●愛の通夜
11	ヤグルマソウ●繊細	ライラック●初恋の感動	ヒゲナデシコ●器用
12	カスミソウ(ピンク)●切なる喜び	カンパニュラ●誠実	スパティフィラム●爽快
13	レンゲソウ●感化	カーネーション(赤)●愛を信じる	トケイソウ●信心
14	ウツギ●古風	ペチュニア(ピンク)●自然な心	グラジオラス(ピンク)●用心
15	ワスレナグサ(白)●私を忘れないで	カーネーション(ピンク)●熱愛	スイカズラ●献身の愛
16	レンゲツツジ●情熱	ノカンゾウ●宣告	シャクヤク●内気
17	カキツバタ●幸福が来る	ロベリア●謙譲	フウセンガスラ●多忙
18	スターチス(ピンク)●永久不変	ユリノキ●幸福	タチアオイ●単純な愛
19	キショウブ●消息	クルミ●知性	バラ(赤)●熱烈な恋
20	シャガ●反抗	レモン●熱意	クリ●公平
21	クロタネソウ●当惑	ムクゲ●繊細美	コデマリ●努力
22	ギボウシ●沈静	アワモリソウ●恋の訪れ	ダマスクローズ●美しい姿
23	ニワゼキショウ●豊富	カラー(白)●愛情	ムラサキツユクサ●賞び
24	オレンジ●寛大	ムギワラギク●思い出	グラジオラス(紫)●堅固
25	ハハコグサ●いつも思う	ニチニチソウ●友情	ウイキョウ●力量
26	アズマギク●別れ	チャ●追憶	ジギタリス●熱愛
27	オキナグサ●背信の恋	シデ●装飾	アガパンサス●恋の訪れ
28	ヒメハギ●隠者	エンレイソウ●熱心	エスカロニア●気むづかしい人
29	スターチス(黄)●誠実	セキチク●女性の美	ジャーマンアイリス●豊満
30	ナシ●博愛	オリーブ●平和	スカビオサ●風情
31		フジ●歓迎	

資料：(社) JFTD